

みやぎ子育て・女性健康支援センター一便り

〒982-0817 仙台市太白区羽黒台21-25 一般社団法人宮城県助産師会内

☎022-229-2388 fax022-395-4228 ✉siensenter@gmail.com 平成29年6月吉日発行

ご挨拶

一般社団法人 宮城県助産師会副会長
みやぎ子育て・女性健康支援センター代表
石川 初枝



新緑の候、会員の皆様には、御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃のご支援に感謝致します。さて、平成29年度一般社団法人宮城県助産師会通常総会において、みやぎ子育て・女性健康支援センターの事業報告をさせていただきました。今回はこの場をお借りし、内容の一部をご報告致します。

電話・メール相談320件、講演41件でした。

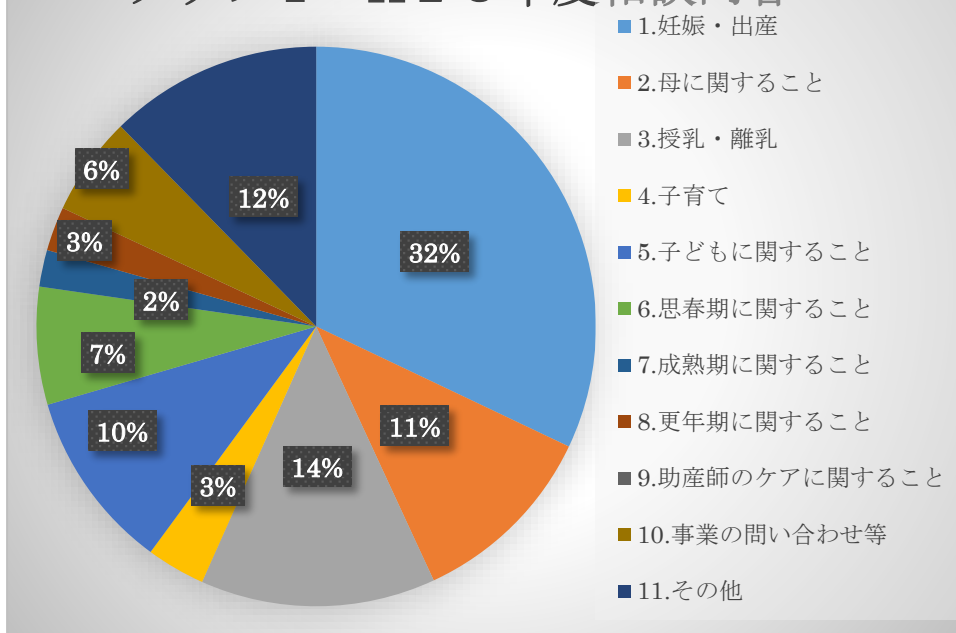
相談内容は、妊娠・出産に関すること32%、母に関すること11%、授乳・離乳に関すること14%、子育てに関すること14%、以下右グラフに示しました。

平成24年仙市委託事業【せんだい妊娠ほっとライン】の委託を受け、内容はますます難しくなっております。妊娠の心配・望まない妊娠・婚姻外の妊娠・DV絡みの妊娠、生活の心配・子育ての不安、心の病気を抱えた方・・・

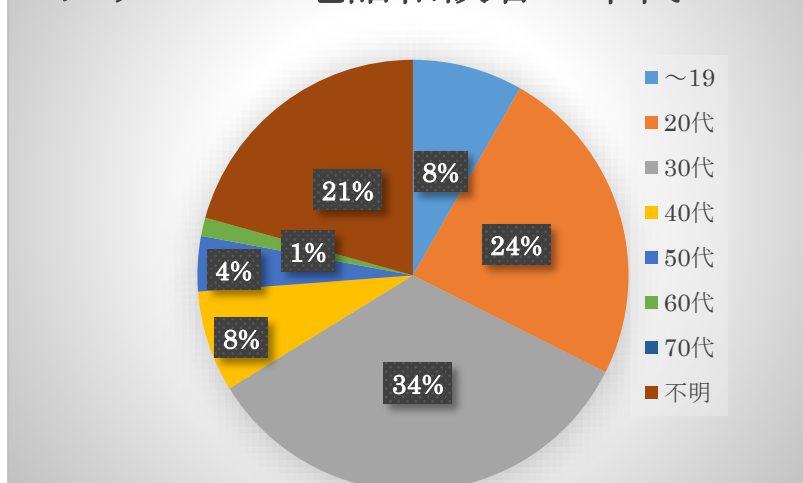
私たちは、相談者に寄り添い、相談者の言葉から解決策を見つけ、必要な知識を提供しております。関連機関との連携も継続する課題です。

電話相談者の年代を、グラフ2に示しました。30代34%、20代24%、10代8%、以下グラフの通りです。10代の望まない妊娠は、誰にも相談できずに悲惨なニュースになります。今後、若い世代に情報をどのように発信していくか、検討して行きたいと考えます。

グラフ1 H28年度相談内容



グラフ2 電話相談者の年代



講演の対象者別を右表に示しました。中学3年生の感想の一部を紹介します。

- ・今、私たちに一番大切だと思う分野のお話でした。
- ・女性は、16才になると結婚できるし、出産も出来る年齢ですが、売春や出会い系サイトなど危ない世界に手を染めてしまう人もいます。残念なことです。
- ・講話で、命とは何か、自分の身を守るために何をすればよいか分かりました。
- ・健康に生活すること、気持ちをコントロールすること、男女の心の違いなど、いろいろ勉強になりました。
- ・将来、看護師や助産師になりたいと思っていたので、今回の話は、勉強になりました。
- ・しっかりと考えて行動することが大切だと分かりました。
- ・自分がまだ大人になっていない状態で、子どもを育てるのは、自分も子どもも幸せになれないことを知りました。
- ・今、反抗期。親とあまり話しません。でも、産んでくれた時の母の愛を知り、嬉しかった。
- ・「生きているだけで、100点」から、生きている意味、人生について考えました。

実施回数	
● 主たる対象者	実施回数 (回)
就学前の子ども	
小学生	1
中学生	13
高校生	14
大学・専門学校等学生	0
保護者	12
教員	1
合計	41

「赤ちゃん大学」沐浴指導に参加して 藤島忍

3月4日と5月14日に赤ちゃん本舗泉店にて行われた赤ちゃん大学の沐浴指導に参加しました。20組以上のカップルが参加、中には上のお子さんずれのカップルもあり、活気にあふれていました。

まずは田村さんの講義から始まります。妊娠中の体のことや子育ての事、出産や子育てには夫婦協力することが大事であることなどを、田村さんの実体験を交えて楽しくわかりやすく講義されて、どのカップルも真剣に聞いていました。

次は3ブースに分かれて沐浴体験です。実際に体験できるとあって、どのカップルも真剣な眼差しでデモンストレーションを見ていました。パパが沐浴担当します、という家庭が多く、パパは緊張で汗だくになりながら実習していました。初めてうまくできないながらも確認しながら質問しながら意欲的に行うパパが多く、こんなパパがそばについてくれたら安心して出産に臨めるだろうと思いました。このような場に参加する男性陣はそもそもが協力的なのでしょうけれど、私の出産した頃と比べて主体的なパパは最近増えつつあるように思います。出産前から夫婦二人で子育てするんだという基礎がこのような場で築かれることを願います。



編集後記

センターでは、広報委員を募集しております。PCを使用でき、フットワークの軽い方ご連絡下さい。